

①のぼうらんすな
山歩二歩一

次回は「至仏山(群馬)」です

●第403話

南八ヶ岳縦走 ①(長野・山梨)

この日泊まった硫黄岳山荘は、神奈川の山縦会の8人など、わずかに13人だった。この山縦会の方々はいつも僕のコラムを楽し

みにしてる、というところで親しく話をしたのだが、メンバーのA氏は73歳。このこと自体どうということはないのだが、驚いたのは、ガンの手術で排せつコントロールができなくなったにもかかわらず、器具をつけて山登りを楽しんでいることだった。これには「病気のデパート」を自認する同行の木内国司さんもいたく感激。「ハンディキャップがありながら、皆と変わらない様子で、楽しくされているのが素晴らしい」と意気投合したのだった。

「7月は御獄山に登ります」とAさん。足首に固定した器具を見

珍種 ツクモグサ捜して

せてくれて「ここに尿がたまったら捨てればいいですよ」と屈託がなかった。

夕食時は、山小屋に土産として差し上げた、僕の新CD「道程」が流れ、少人数ながら皆さん「いい思い出になったわ」などと喜んでいただいた。

翌日は晴れの予報だったが、深



い霧に強風が残っていた。6時20分に小屋を出て、岩場の道に黄色いツクモグサを捜しながら、ゆっくり赤岳方面に向かう。ツクモグサは「九十九草」と書く。八ヶ岳山麓には翁草が咲くが、その高山種で純粋な黄色の美しい花である。花期は6月中旬から下旬。今日は6月28日なのでどうだろう?

しかもツクモグサは八ヶ岳と白馬岳にしかなく、八ヶ岳でも横岳から赤岳の稜線にしか咲かないといわれている、まさに珍種なのである。

結論を言うと、残念ながらほぼ終わっていた。僕は赤岳展望荘でこの先、まだ咲いてますかと聞いたが、ないとの答えだった。う

ん、梅雨で延期したのが響いた。赤岳からキレット小屋に下る。小屋は休みだったが、周囲にはコマクサが咲き始めていた。そこから旭岳、そして長い梯子をこわごわ登って権現岳山頂に立った。この辺りから青空が広がり、振り向くとアルペンムードいっぱい。南八ヶ岳の山々が勢ぞろいしていた。権現小屋で一休みして、青年小屋経由で観音平まで、満足度100%の南八ヶ岳縦走だった。



南八ヶ岳縦走 硫黄岳山荘～横岳～赤岳～権現岳～青年小屋～観音平は8時間40分の長丁場。途中の山小屋でも泊まるなど、余裕のある日程を組んだ方がいい。観音平～JR小淵沢間にバスなどの公共交通はないので、タクシーを利用することになる。北杜市観光協会小淵沢支部0551・42・1119